

他者の心を読む心

Keywords | 心の理論 | コミュニケーション | 志向意識水準

サリーとアンの課題

誤信念課題とも呼ばれる。正解は「サリーのかご」。4～7歳にかけて正解率が上昇する。

1 これはサリーです。 これはアンです。
サリーのかごです。 アンの箱です。

2 サリーはビー玉を持っています。
サリーはビー玉を自分のかごに入れました。

3 サリーは散歩に出かけました。

4 アンは、ビー玉をかごから取り出すと、自分の箱に入れました。

5 サリーが戻ってきて、ビー玉を遊びたいと思いました。
ビー玉を出したいサリーは、どこを探すでしょうか？

突 然だが、以下の質問に答えてほしい。
「同じお部屋に女の子が2人います。1人はサリーで、もう1人がアンです。サリーはビー玉を持っています。サリーはそのビー玉を自分のかごの中に入れて、お部屋から出て行きました。その間にアンはサリーの入れたビー玉を、アンの箱に入れ替えました。やがて、サリーは部屋に戻ってきました。ビー玉を出したいサリーは、自分のかごを探すでしょうか、アンの箱を探すでしょうか？」

これは、発達心理学者サイモン・バロン＝コーエンの考案した有名な課題の1つである。

ここで「アンの箱！」と思った人は、もしかしたら、人の心を読む能力が衰えているか、よほど疲れているのかもしれない。なぜならサリーは、自分が部屋にいなかったときにアンが行ったことを知ることはできないからだ。ある程

度の年齢に達している人の大部分は、サリーが知っている範囲を察して「サリーのかごを探す」と答えるだろう。

◆相手は何をわかっているか

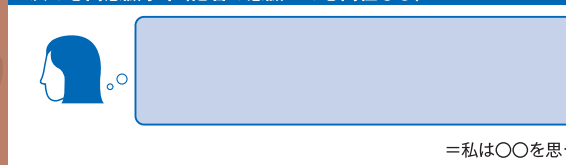
では、何歳くらいの人の大部分がサリーの知っている範囲を察して答えることができるのだろうか？ これまでの研究では、3～4歳児ではほとんどが正しく答えられない。しかし、4～7歳にかけて正解率が大幅に上昇すると言われている。

私たちは人とコミュニケーションをとりながら日々の暮らしを営んでいるが、「相手は何をわかっているか、何をわかっているのか」を理解しなければ円滑なコミュニケーションができない。このような理解を可能にする能力は「心の理論」と呼ばれている。この能力のおかげで、人は他人にも

志向意識水準の次元

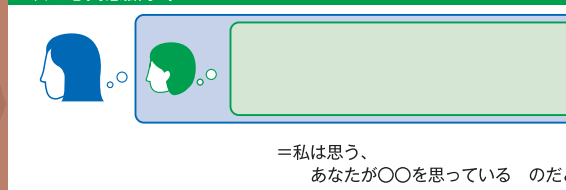
志向意識水準は、論理的には無限に次元を上げることができそうだが、実際に人間に活用可能なのは5次元までと考えられている。

1 次 の 志 向 意 識 水 準 (他者の意識への志向性なし)

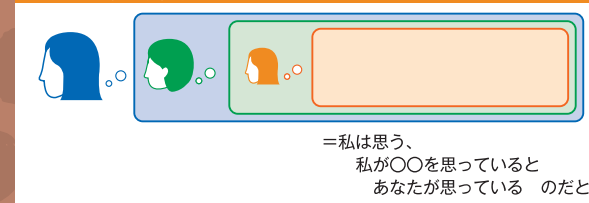


……………これ以降は他者の意識への志向性……………

2 次 の 志 向 意 識 水 準



3 次 の 志 向 意 識 水 準



4 次 の 志 向 意 識 水 準



5 次 の 志 向 意 識 水 準



心が宿っていると考えることができる。このことを「他人への心の帰属」と呼ぶ。さらに他人の心の働きを理解する「心的状態の理解」と、その理解に基づいた他人の「行動の予測」をすることもできる。

◆より高次の心の理論

また、コミュニケーションは相互的なものなので、相手も自分が考えていることを理解して、自分の行動を予測している。つまり、「自分の心に関する相手の心を理解する」といったより高次の心の理論も使って日々のコミュニケーションを営んでいるのである。一般に5次元の水準(志向意識水準の次元)まで活用可能だと考えられている。

1 次 の 水 準 で は 他 者 の 心 へ の 志 向 性 が なく、2 次 の 水 準 は サリーとアンの課題のように「相手は何を知っているか」と

いう場面が該当する。3 次 の 水 準 は、例 え ば 「私 は『彼 は、私 が 生 日 を 祝 っ て ほ し い と 思 っ て い る』 と 思 っ ち ます」という場面である。4 次 の 水 準 で は 「私 は『彼 が、彼 の サ プ ラ イ ズ パ ー テ ィ ー 企 画 を 私 が 知 ら な い と 思 っ て い る』 と 思 っ ち ます」という場面、5 次 の 水 準 は 「私 は『彼 が、私 が サ プ ラ イ ズ パ ー テ ィ ー を 喜 ん で い る こ と が 彼 に 伝 わ っ て い る と 私 が 知 っ て い る、と 思 っ て い る』 と 思 っ ち ます」という場面が該当する。

バロン＝コーエンによれば、心の理論は意図の検出、視線の検出、注意共有のメカニズムに支えられている。私たちが普段何気なく行っている人の心の理解は、実は心の理論という高度な心理的システムに支えられているのである。

(杉山 崇)